



『活きていることわざ』

船橋市議会議員

神田 廣栄(かんだひろえい)議会報告

【事務所】船橋市飯山満町1-836-5 ☎420-6511 FAX 424-8712
 ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~hiroei/>
 Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

天災は忘れた頃にやってくる。つまり肴(さかな)

【天災は忘れた頃にやってくる】◇災害は、人々がその恐ろしさを忘れたところに起こるものなので、対策を立てておかなければならない、ということ。
 ・寺田寅彦の名言として知られる。弟子に語ったり文章にもある。
 【つまり肴】◇もはや打つ手がなく、拙劣(せつじやく)な策を出すことのとたとえ。
 ・酒宴が延びて 予定の肴(さかな)がなくなり、しかたなく出す「間に合わせの肴」の意。

本議会の開催は年4回あります。今度は12月1日から始まります。現在はその中間で、議会活動は常任委員会が2～3回ある程度で、それ以外は時間的に束縛されることがほとんどありません。そこでこの時期に委員会や各会派の「視察研修」がさかんに行われています。

①私が所属している「市民環境経済委員会」は、10月28・29日に名古屋市へ干潟保全とごみの減量を、大阪府堺市へ市民防犯事業を視察に行くことになっていましたが、10月23日に突如『新潟県中越地震』が襲ってきました。私の郷里は新潟県新発田市近郊で、幸いにも被害がほとんどなかったとのことでしたが、震源地に近い惨状はご承知の通りです。私は少しでも被災地の方々の助けになればと、視察をやめて、救援物資の手配をし、募金活動をしています。



中学生の時に『新潟地震』を体験していて、直下型の地震の怖さは身に染みんでいます。異様な地鳴りがして、間もなく地下から突き上げられるようにガンガンと上下に揺れ、すぐにユッサユッサと横揺れに襲われます。その後数年は地鳴りの音が耳から離れず、ちょっとした音にも敏感になりました。最近は『天災は忘れないうち』に襲ってきます。日頃から防災意識を持っていることが大切です。



備えあれば憂いなし

亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々が一刻も早く安堵できる環境が整うことを願います。

②9月議会では、飯山満町にあるケア・リハビリセンターについて前回に引き続き質問しました。6月議会で質問した時は担当者が人事異動で交替したばかりで、「良く分からない（行政として本来はこんなことではいけません）」とのことで、全く満足できる回答ではありませんでした。



私は以前、このケア・リハビリセンターの土地購入と建設の過程で不明確な点があると監査請求しました。しかし、この監査請求は門前払いでしたので、個人が提訴できる「住民訴訟」という手段で当時の責任者に対して、船橋市に損害を与えたという『損害賠償事件』を千葉地方裁判所に提訴しました。結果は敗訴しましたが、その際に入手した、船橋市側がこのケア・リハビリセンターの必要性を訴えた文章に基づき質問しました。

(1) ケア・リハビリセンターを利用できる人は、高齢者であれば誰でも利用できるものではなく、「治療や医療リハビリ」を終えた高齢者のみが入通や通所ができることになっている。と案内書にも書いてあるが、市内には利用できる該当者がどれくらいいると把握又は認識しているのか。

(2) 1階にかなりのスペースをさいた、別名「出会いの食堂」というカフェテリアがあり、ここは地域に開放することになっている。その場所の利用状況はどうか。(本当は、ここが全く利用されていないことや、利用のPRすらしていないことを知っていました)

等を質問しました。市の回答は、

(1) について 身体の状態を証明する医師の診断書の提出ができる方となっているので、該当者の数を把握することは難しく把握していない。



(2) について PRはしたことがない。ケアハウス居住者の食堂としての位置付けが強くなり、実態として地域への開放ができなかった。

と、前回に続いて苦しい答弁でした。

どれくらいの需要があるのかも調べないで、39億円の巨費を投じたのです。また、「出会いの食堂」は、当時、近隣への説明が遅れたり誠意不足もあり、猛反対が起こったことに対する地元対策の、口先だけの口実でしかなかったのではないかと勘ぐらざるを得ません。



— 後日談 — 10月の人事異動で替わった新所長は「今後はより多くの方々に利用して戴けるケア・リハビリセンターにしていきます」と言われました。『つまり肴』にならないように期待したいものです。